



TITLE:

天文同好會

AUTHOR(S):

CITATION:

天文同好會. 天界 1932, 12(131): 122-122

ISSUE DATE:

1932-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161879>

RIGHT:

天文同好會

廣島支部だより

1931年7月15日—本川校で7月の例會を開きました。集る者約30名、新光社發行の“最新天體畫報”をテキストにして“7月の星座”に付いて私がお話し致しました。其後バルコニーへ上つて實物の星座を研究して散會致しました。尚ほ出席者には、倉敷天文臺撮影の月の寫眞を差上げました。

8月26日—奥氏と私と2人で15cmの反射鏡と7cmの屈折機の2機を神崎校へ持つて行き、望遠鏡の區別、宇宙の大きさ、夏の星座、土星等に付いて私が話し、土星、月、二重星等を觀測致しました。

當夜は神崎青年團の天文の夕で、團員と青年訓練所の生徒及び學校の教員約200名の集りでありました。(T. O.)

去十一月の總會カリカチュア

水野先生粉失事件

宮島見物の一行、神社をバックに記念撮影と言ふ時、突然水野先生の姿が見えない。どこではぐれたのだらう？一同心配。中でも荒木健兒氏ときたら顔が眞青。待てど暮せど姿無し。先生らしい姿を見付けて荒木氏走つて行つたが人違ひ。水野先生とうとう見物はおじやん。後で先生“ステツキを買つて居る間にはぐれたのです、と、うらめしそうにステツキを見せて下さる。罪深きステツキなる事よ。

君子危きに近寄らず

廣島で或夜の出來事。頭を刈らんとして宿舍を出られた山本先生、氣持の良さそうな理髮店があるので何んの氣なしにドアを押された。内を見ればこはいかに、中華民國人の理髮店！時節がら首でも落されてはとホウホウの體で退却された由。その有様を見て居たスバルが腹をかゝへて笑つたとか。

(T. O.生)